令和４年度　第４回タウンミーティングの概要

１　団体名　　ＮＰＯ法人ＳＫ人権ネット（熊谷なないろ食堂）
　　代表者　　代表理事　山口純子

２　開催日等
（１）開催日　令和４年１１月２０日（日）
（２）会　場　熊谷なないろ食堂
（３）テーマ　熊谷市に子ども食堂を増やすための、行政との連携について

３　意見交換の概要
※ [　　] 内はミーティング終了後、所管課で補足したものです。

市民　私たち、熊谷なないろ食堂は、子ども食堂、フードパントリー、学習支援など子どもの居場所づくりに取り組んでいます。

子ども食堂では、平日の月・水・金曜日の午後５時から午後７時の間に中学生以下１００円、高校生以上２００円でお弁当と味噌汁等の汁物を提供しています。今年の８月までは中学生以下は無料で提供していましたが、一時１日２５０食くらいまで増え、スペース、人員、費用的に難しくなり、フードパントリーに登録しているひとり親家庭等の子どもは無料とし、それ以外の方は、１００円にしました。今は、本当に必要な方を中心に１日１５０食から１７０食を提供しています。

必要な食材は多くの寄付があり、毎月定期的・継続的に支援を頂いている企業やお店以外に、単発的な支援もたくさんあります。野菜やお米のほかフルーツ、アイス、パンなど様々なものをいろいろなところから頂いています。

なないろ食堂では、フードパントリーにも力を入れています。ひとり親家庭で一定の収入以下の家庭など、本当に支援が必要な世帯を対象に、食材や日用品を無料で渡しています。約１３０の家庭が登録しています。

フードパントリーは約５０リットルのコンテナいっぱいプラス野菜、お米、学用品、無料バザーなど、その時に応じて渡しています。車がなくて取りに来られない家庭には、家まで届けています。１３０の家庭に渡すための寄付をいただくのは大変で、市役所でも１階で定期的にフードドライブを開催したり、市内の幼稚園や小中学校にも支援を呼びかけ、今２５団体くらいに協力していただいています。先生方だけでなく生徒会や委員会など、子どもたちが中心となって校内放送で呼びかけたり、保護者向けに手紙を出すなど協力いただいています。子どもたちも何かしたいけれども何をして良いかわからない中で、使っていないノート１冊、鉛筆１本でも自分の知らないお友達の役に立つなど直接的に関われ

る活動でもあり、校長先生からも評価をいただいています。
　また、学習支援活動にも力を入れています。月・水・金曜日の週３回、子ども食堂と同じ時間に、近くにある「てらこや」と名付けた学習支援スペースで、フードパントリーに登録している家庭の子どもたちを対象に行っています。立正大学の学生や、熊谷女子高校の生徒などがボランティアに来てくれています。
　学習支援は子どもたちの居場所づくりにもなっています。学校以外に自分のことを理解してくれる友達や相談できる相手がいるのは大事なことで、ここが第３の居場所になればいいと考えています。不登校のお子さんもたくさんいます。それでもここには毎回欠かさず来ている子どももいます。ボランティアの学生にとっても子どもたちに喜んでもらうのは良い経験になると思います。
　ほかに、体験活動にも力を入れています。今年の５月には、久しぶりに屋外イベントを開催しました。ゲームや軽食の屋台など子どもたちが遊べる内容が盛りだくさんでした。他には、畑を借りて育てたサツマイモを子どもたちと一緒に収穫したり、あとは体験イベントとしてカップケーキやピザを作りました。
　コロナ禍でほとんどの学校が休校になったときは、月曜日から金曜日までの朝８時から子ども食堂を開放しました。預け先がないお子さんを預かり、一緒にお昼を食べて勉強して夕方まで過ごしました。そのときも多くの学生が参加してくれました。その時々の状況で、必要なことをしていきたいと思っています。
　フードパントリーも、多くの企業に協賛いただいており、今の時期だといろいろな色や種類の新品のランドセル、年が明けると学用品です。小中学校のフードドライブでは多くの学用品をいただきますし、企業から必要なものを聞かれたときに、学用品が必要ですというとまとめて送ってくれたりします。
市長　自助に限界のある方が、なないろ食堂の皆さん方のフォローを必要としている中で、行政の手の届かない隙間に浸透するのが皆さん方の活動だと思います。どうしても行政は、一定のルールの中で支援していますので、その制度から漏れてしまう方がいる。そうなると皆さん方の共助の活動はとてもありがたい。今日は、どこがお手伝いできるポイントなのか要望をお伺いして、皆さんと市の協働がどのようにできるか話ができればと思っています。
　皆さん方はＮＰＯやボランティアで、共助の立場だと思っています。皆さんがボランティアで頑張っているからフードドライブでものが集まったり、いろいろなことができる。
　困っている方たちをしっかり支えてくださっていることに対して、今までの支援に加えて市がどこまでできるか、今日ここで即答するのは難しいので持って帰って検討させてもらいます。皆さん方は我々よりもマンパワーを持っている。ボランティアの方がたくさん来てくれる。学生さんも来てくれる。この点も行政の弱いところです。皆さんが強いところと市が強いところがあります。どの

ように協働していくか。

市民　なないろ食堂の課題として、学習支援では、子どもたちが、開始当初の人数のままだということです。支援が必要な子どもたちはもっといるのですが、継続的なボランティアの確保が難しいため増やすことができません。フードパントリーも今１３０の家庭が登録していますが、支援が必要な家庭はどんどん増えて、十分お渡しするには品物が不足しています。

行政のサポートと民間のサポートは性格が異なります。行政は一定のルールと基準を設けてサポートするのが、平等で公平なやり方だと思うのですが、行政の手が届きにくい、取りこぼされた家庭がたくさんあります。実際に支援している家庭の例ですが、別居しているけれども夫が離婚を拒み離婚が成立していない家庭があり、ひとり親家庭のサポートが全く受けられていません。児童手当や給付金も夫の口座に入ってしまいます。

あとはＤＶの相談ですね。ＤＶで生活が一杯一杯で、こんなことも知らないのかなと思うくらい支援制度の知識がない方もいますのでそのサポートをしています。また、ひとり親家庭の小学生の不登校の居場所づくりです。「くまなびスクール」（小中学校での補充学習の場）や「さくら教室」（不登校相談や学校復帰支援）もありますが、そもそも不登校だと「くまなびスクール」には通えませんし、「さくら教室」は保護者の送迎が必要なので、働いているお母さんには難しいこともありますので、民間だからできる支援も多々あると考えています。

いろいろな市で取り組まれているのは、子ども食堂やフードパントリーのチラシなどを、ひとり親家庭への現況届の送付時に同封することです。こちらで個人情報を知ることなくこちらの情報を届けることができます。今までも市にはこども課を中心に大変お世話になっていますが、これが今回一番お話ししたかったところで、問題解決のための提案となります。

なないろ食堂で週３回お弁当を配って、フードパントリーをたくさんやって、こんなに学校と連携してと言ってもまだまだ取りこぼしているところがあります。自分たちがこれだけ頑張っているからそれでいいと満足しないで、もっと必要な家庭や子どもたちがあるなら、いろいろなところと連携して素早く対応できる体制を作りたいと思っています。

もう一つの提案は、熊谷市もネットワークを作りながらサポートしてはどうかということです。子ども食堂に行きたくても行けないのは、数が少ないからということもあります。せめて中学校区に１ヵ所、市内に１５、６ヵ所、子ども食堂などの居場所があるとお子さんが行きやすくなると思います。そこに市長が旗振り役になっていただいて、「こんなふうに応援しています。」「サポートしています。」と言っていただきたいと思いますし、市報で子どもの居場所の特集を

組んでいただくなどＰＲしていただくのが、予算を伴わない現実的な支援だと思っています。実際に私は「子ども食堂を立ち上げたい。」とか「会社としてやりたい。」など、いろいろな相談を受けていますし、子ども食堂の手伝いをしたいというボランティアさんがたくさん来ます。そのほかにも潜在的に、自分で立ち上げることはできないけれども手伝いたいとかサポートしたいという方がたくさんいると思います。特に飲食店の方から店が開いていない時間帯に子ども食堂やりたいという声があります。ネットワークを立ち上げて課題解決のために情報を共有するなど横の繋がりを作れば、子ども食堂を始めてもすぐやめてしまうところが多いのですが、あそこが大変そうだからみんな手伝おうなどと協力しやすくなるし、子ども食堂がたくさん増えれば子どもたちも利用しやすくなります。フードドライブについてはすべての小中学校との連携を目指しています。子ども食堂が増えて地元の小学校と連携すれば活動も活発になりますし、ネットワークを作ると窓口が１か所に集約できる利点もあります。

市長　民間の飲食店の方がこの活動を手伝いたいということには驚きました。皆さんがボランティアとして取り組んでいることに対して、民業圧迫にならなければいいなと思っていたところ、そうではないこともあるようですので。

市が旗振りしてネットワークにたくさん入ってもらうことよりも、それぞれの子ども食堂がしっかりとコミュニケーションを取って質や量を合わせていくことが大事だと思うのです。その協議に市が入るのは少し厳しいかもしれませんが、皆さんの方でネットワークを作って、連携しているので、熊谷市に後ろ盾になって欲しいということであればどうにかなるのかなと思います。

（こども課） 熊谷市の子ども食堂ネットワークを作ることについては、県内の子ども食堂のネットワークである「埼玉県子ども食堂ネットワーク」と同様に、まずは、民間主導で立ち上げていただく方がよいと考えています。

市からの支援としては、これまでの広報や場所の提供等の支援を継続していきますが、来年度には、こども家庭庁が創設され、子育て支援のメニューも変わることが考えられますので、国や県の動きを注視し、補助金等の情報提供を随時行っていきます。

市民　ネットワークを作っていくためには一定のルールが必要です。私たちが特に気を付けているのは、寄付された食材などを悪用することがないようにということです。寄付頂いたものはあくまでも預かっているもので、自分たちのものではないという意識を持ち、その教育を徹底することと、ネットワークに入る上で、ルールを決め、違反した場合はネットワークから外れてもらうというような規定を設ける必要があります。

子ども食堂や NPO の活動は、活動内容やそこに係わる人たちにどれだけ信頼してもらえるかということが大事です。ルールを守れないところとは一緒にで

きませんので、そこはかなり厳しくやりたいと思います。

市長　生活保護など様々なセーフティネットがありますが、平等、公平の立場から手が届かないところもあります。皆さん方に行政の弱点をフォローしていただいている中で、どのように協力できるかを、改めて考えてみないといけないのかなと思っています。アドバルーンを上げてくださいという話がありましたが、それだけならいくらでもと思っても、上げれば責任も伴いますのでそれに対しては少しだけ検討する時間を下さい。

　子どもの居場所づくりを、ネットワークを作りながら熊谷市中に広げて行きたいという想いはわかりました。市としてどのように皆さん方に協力していくか、一歩間違えると、児童クラブで食事出せば良いじゃないかという考え方の人も出てきます。でも、来てくれたお子さんがありがとう、お子さんにこれ渡してねという人はありがとうという環境をどう作るかが一番大事だと思うのです。ネットワークについては、今日みなさんのお話を聞いた中では、私もやれたら良いなと思うし、できるだけ皆さん方の想いを伝えられる環境づくりをこれから議論していきたいと思います。まずは旗を振るだけでもいいと言っていただいたので、そこを確認しながらやらせていただきたいと思います。

（こども課） 広報の支援及び後援を行うことは可能です。これまでどおり、フードドライブについての案内を市報に掲載することや御要望があれば、内容を協議したうえで、市ホームページへの掲載を行うことも可能です。

　また、市報で特集を組むことについては紙面の都合がつけば可能ですので検討したいと思います。